

教育長室だより

第 11 号

2019.4.15

桜の木が薄緑色に変わり始める季節となりました。

子どもたちは新学期が始まって新しい先生やクラスメートと出会い、わくわくどきどきの一週間だったことでしょう。

子どもに限らず、大人の世界も4月は心機一転張り切ったの毎日ですが、環境が変わり、心身共に疲労のたまる時期でもあります。体調や交通事故には十分注意するよう声をかけてあげてください。

○

教育には常にたくさんの課題があります。学力向上やいじめの根絶、不登校対応、熱中症対策や非常変災対策、情報モラル教育や教師の働き方改革など…。

本年度の教育委員会の重点事項については町の広報に掲載していますので参照してください。

○

重点事項に関していくつかお知らせしておきたいことがあります。

【グローバル人材の育成支援事業】

小学校の外国語教育は令和2年度からの本格実施に先立って、昨年度から実施しています。本年度は町費と県費各1名の外国語教育支援員を配置して4小学校の実勢に支援に当たり、充実した実践の確立を目指します。

また、中学校では夏休みを利用した海外研修を実施します。できるだけご家庭の費用負担を軽くしてどの子にもチャンスがあるように計画しています。そのため本年は中学2年生12名のみの派遣となりますが、ぜひ立候補してほしいと思います。詳しくは教育委員会へお問い合わせください。

【不登校対策】

不登校は誰にでも起きる可能性があります。

子どもも大人と同じで、毎日何らかのストレスを抱えながら生活しています。だから楽しい学校と思っている子でも月曜には少々気合いを入れて登校し、金曜の放課後にはほっと一息ついているのではないのでしょうか。そのストレスを家庭と学校の活動の中で発散し、消化し、一定の自己実現をしながら頑張っているというのが実情でしょう。

この心のバランスがくずれると不登校にもつながります。周囲との違和感が限度を超えたり、しんどいと感じることを頑張るための心の支えがなくなったとき糸が切れたように不登校になると言われます。

不登校にも様々な段階があるといわれますが、まずは学校の先生方と相談することが大事です。担任の先生や関わってくれてる先生からの言葉や情報が対

応の支えにもなります。しかし、学校に行けない状況が続くようになってしまったときには別の対応が必要になります。

町教委では学校に行けなくなった子どもさんが学習や様々な活動をしながらい日を過ごす場所として適応指導教室「キャロツ子教室」を設置しています。

専任の2名の先生や不登校に理解のあるたくさんのボランティアの方々が、様々な活動を支援してくれています。あと一息で学校に行けそうなお子さんの支援と、家に引きこもりがちなお子さんの居場所提供もここでできています。詳しくは学校かあるいは教育委員会にご相談ください。

【青少年相談室の開設】

4月から教育委員会内に「青少年相談室」を開設しました。

町の広報誌でお知らせしましたのすでに相談も入ってきています。5月からの本格実施を目指して準備中ですが、すぐに連絡をいただいてもかまいません。

開設の目的は、子どもたちが抱える問題が、かつてのような街頭補導の対象になるようないわば粗暴な問題行動からネット、スマホ依存やいじめ、不登校などの問題に変質し、ご家庭でも問題化してきていることへの対応です。

「相談」活動を中心に、学校と連携しながら、主に小・中学生の問題やご家庭の悩みに積極的に関わっていきたいと考えています。

相談方法 電話相談：088-637-3310(青少年相談室)

来所相談：青少年相談室窓口（役場2階北側教育委員会内）

※ 個人情報にはきちんと守り、相談の別室も用意しています。

従来の2名のスクールカウンセラーの先生方に加えて、本年度より1名のスクールソーシャルワーカーの先生に来ていただき、家庭生活全般の相談をしていただけます。これらの先生方も「青少年相談室」と連携して活動していただきます。

【文化ホールの活用】

総合文化ホールが4月に完成しました。連休明けから保健センター、包括支援センター、社会福祉協議会がこの中で活動を開始します。

そしてホールを含む全館の使用開始は11月からの予定となっています。秋以降は一般の方もイベント開催や会議室利用、音楽練習など様々な目的で利用できます。詳しくは連休明けに事務室が設置され次第お問い合わせください。

また、ぜひ子どもたちにも大舞台に立つ経験をさせたいと考えていますので、小・中学校の児童・生徒が利用できる機会を見つけていきたいと思っております。



子どもたちにとって1年はかけがえのない時間です。

ご家庭と学校や地域が手を携えて成長を見守っていきたくと考えています。連携はコミュニケーションから始まります。子育てや教育に関して、いろんな機会に相談したり話し合ったりできるように共に考えていきたいものです。